

平成23年12月16日

各 位

昭和産業株式会社

平成24年1～3月期の配合飼料価格改定について

昭和産業株式会社の平成24年1～3月期の配合飼料価格について、同期使用の原料価格動向ほかを勘案いたしまして、下記の通り改定をご案内申し上げます。

記

平成24年1～3月期配合飼料価格改定幅：全国全畜種平均

前期（平成23年10～12月期）比 トあたり 2,220 円値下げ となります。

平成24年1～3月期の主な原料状況は以下の通りです。

1. 主原料価格

とうもろこしのシカゴ相場は、夏場以降の生産量の減少と好調なエタノール需要等から米国の期末在庫率は依然低く、需給は厳しい状況にありますが、欧州の債務危機問題の影響により、やや弱い基調となっております。

為替は、欧州の債務危機により安全資産として買われていた円が急騰し、10月31日に戦後最高値となる1ドル75.32円をつけました。これを受け円売りドル買い介入により79円台半ばまで戻し、その後77円前後で推移していましたが、現在は米国の景気回復傾向や欧州金融機関のドル買いにより、一時よりやや円安の78円前後で推移しております。

海上運賃は、世界的な景気減速懸念や新造船の就航により需給は緩和気味も、冬場の需要期に向けた傭船も始まり、また原油価格の高止まりにより燃料コストも上昇していることから、堅調に推移しております。

以上の結果として、とうもろこし等主原料の使用円価は、前期比(10-12月)で下落致しません。

2. 蛋白原料価格

植物性蛋白原料については、大豆ミールは、米国産大豆の需要減少や南米産の生育が好調なことから、軟調に推移しております。

動物性蛋白原料については、魚粉は南米での漁獲高も改善され、需要もやや低調なことから軟調に推移しております。

3. 糟糠類（そうこう類）

糟糠類については、グルテンフィード・ふすま共に需給が引き締まっていることから、堅調に推移しております。

本件に関するお問合せは、03(3257)2941 昭和産業(株)飼料畜産部 杉浦迄お願いします。

以上